

# クロアチアの歴史

2021年7月  
在クロアチア日本国大使館

★クロアチアは、その一部や全部が、多くの帝国・王国等に支配・攻撃された歴史があり、また、帝国等の列強間の境界地域に存在したという特徴がある。そのため多くの民族・宗教との関わりがあり、今日の社会・文化等にも大きな影響を与えている。

紀元前	イリリア人と呼ばれる人々が居住。（「イリリア人」という呼称は南スラブ諸民族の総称）
紀元前 4 世紀頃	ケルト人とギリシャ人が進出。
紀元前 2 世紀頃	ローマ人が進出。ローマの属州「イリュリウム」となる。（1 世紀に属州は再編され「パンノニア」、「ダルマチア」属州となる。）
紀元前 1 世紀頃	ローマ人によりザダルの広場（フォーラム）が建設される。
1 世紀	ローマ人によりプーラのアウグストゥス神殿、円形劇場が作られる。
305 年	ディオクレティアヌス（位 284～305）がローマ皇帝を引退、スプリットに宮殿（ユネスコ世界遺産）を造る。
395 年	ローマ帝国の東西分裂（境界は、概ね現在のベオグラード（セルビア）とコトル（モンテネグロ）を結ぶ線）。
4～6 世紀	ポレチ市にエウフラシウス聖堂（ビザンツ様式。ユネスコ世界遺産）が建てられる。
4 世紀以降	フン族が西ヨーロッパに侵攻。ゲルマン民族の大移動。
476 年	ゲルマン人傭兵隊長が西ローマ帝国を滅ぼす。
<u>5～7 世紀</u>	<u>現在のクロアチア人を含め、スラブ人がバルカン半島に南下。その背景は、モンゴル系遊牧民からの圧迫など。クロアチア人は、もともと現在のウクライナあたりに住んでいたと見られる。</u>
7 世紀	クロアチア人はモンゴル系のアヴァール人に支配されていたが、一部はその支配から脱する。
7～8 世紀	イスラム勢力が地中海に進出。
8 世紀末	シャルルマーニュがアヴァール人を平定。一部クロアチア人もシャルルマーニュに加勢した。
<u>800 年</u>	ローマ教皇レオ 3 世がフランク王シャルルマーニュに「皇帝」の冠を授ける（「西ローマ帝国」が復活し、西欧が 1 つの文明世界としてまとまった。）。二人の皇帝の誕生で、ビザンツ帝国との間で当初緊張関係。 <u>フランク王国は現在のクロアチアの一部を属国とする。</u>
812 年	シャルルマーニュは、ビザンツ帝国にヴェネツィア、イストリア、ダルマチアの宗主権を譲る。（イストリア、ダルマチアは現在のクロアチアの一部。）

9 世紀以降	クロアチアはビザンツ帝国の影響下でキリスト教を受け入れる。(キリスト教は、865 年ブルガリア、998 年ロシアでも受け入れられた。ビザンツ文化の北方への拡大。)
9 世紀後半	ビザンツ皇帝の側近のギリシャ人学者キュリロスによりグラゴル文字が考案される。クロアチアでは、ラテン語とともにグラゴル文字が使われる。
876 年	ドマゴイ公の反乱によりダルマチアにおけるフランク支配が終わる。
9 世紀以降	バルカン半島にドイツ人、マジャール人（ハンガリー人）が侵入。
9 世紀末	クロアチアのブラニミル王の治世下、独立を周辺諸国から認められる。
10 世紀	バルカン半島でスラブ人が最大の民族になる。
<u>925 年</u>	<u>クロアチアの初代国王トミスラブ王（在位 910～928 年）がローマ教皇により戴冠。</u>
10 世紀後半	クロアチアはペタル・クレシミル 4 世（在位 1058～1074 年）の時代に最大の版図を実現。(中世クロアチア王国（クロアチア・スラボニア・ダルマチア王国))
<u>1054 年</u>	<u>東西教会の分裂。クロアチアはローマ・カトリック地域となる。</u>
1094 年	ハンガリー王ラディスラフ 1 世、ローマ・カトリックの司教座としてザグレブのカプトルを建設。ザグレブという名前が記録に初めて現れる。
1097 年	クロアチアのペタル・スパチッチ国王、グボズドの戦いでハンガリーに敗れ、戦死。
<u>1102 年</u>	<u>ハンガリー王カールマンが 12 人のクロアチア貴族（部族の長）と連合協定を結び、クロアチア王を兼ねる。以後クロアチアは、第 1 次世界大戦中の 1918 年までの約 800 年、ハンガリーに従属する形となる。</u>
12 世紀	セルビア人が自立を始める。
13 世紀	ビザンツ帝国の保護領であるも、独立性を高めたヴェネツィア共和国が、ビザンツ帝国と西ヨーロッパの交易を独占して繁栄。
1203 年	ドブロブニクはヴェネツィア共和国の支配を受ける。
1204 年	十字軍がコンスタンティノープルに侵入しラテン帝国を建国（～1261 年）。
1241～1242 年	モンゴル襲来。クロアチア・アドリア海岸に逃れたハンガリー王ベーラ 4 世をモンゴル軍が追う。
1254 年	マルコ・ポーロがヴェネツィア共和国の商人の息子として、コルチュラ島（現在のクロアチア）で生まれる。(現在のクロアチア国内での通説)
13～18 世紀	ザグレブ市内のカプトル地区にカトリックの聖母被昇天大聖堂（いわゆる「大聖堂」）が建設される。
14 世紀中頃	オスマン帝国がバルカン半島に進出。
<u>1358 年</u>	<u>ドブロブニクはヴェネツィア共和国からハンガリー王国の庇護下に移り、以後独立性を高める。(15 世紀前半に正式に「ドブロブニク共和国」と称する。15～16 世紀に城壁を整備。)</u>

1389 年	コソボの戦い。敗北したセルビアは、オスマン帝国に立ち向かう戦力を失い、以後オスマン帝国の属国となる。
<u>1453 年</u>	<u>オスマン帝国がビザンツ帝国を滅ぼす。</u>
15 世紀後半	オスマン帝国はセルビア、ボスニア、アルバニア、ヘルツェゴビナを征服・併合。(20 世紀初頭まで、オスマン帝国はバルカン諸国のかなりの部分の統治者となる。クロアチアは、オスマン帝国からたびたび攻め込まれたが、支配された訳ではなかった。ただし、1481 年にドブロブニクは事実上オスマン帝国の庇護下に移る。)
<u>1526 年</u>	<u>ハンガリー王国ラヨシ 2 世、モハーチの戦いでオスマン帝国に敗北し、死亡。オスマン帝国軍隊はザグレブにも攻め入る。</u>
1527 年	クロアチアの北部の一部は、ハプスブルグ家（オーストリア系）の支配下へ。
<u>16 世紀以降</u>	<u>ハプスブルグ家とオスマン帝国の対立。ハプスブルグ家の政策により、セルビア人がクロアチアの国境地帯（軍政国境地帯）に国境警備兵（屯田兵）として入植。</u>
1529 年	オスマン帝国軍がウィーンを包囲。
1538 年	オスマン帝国海軍、プレヴェザ沖の海戦でスペイン・ヴェネツィアの連合軍を破り、地中海の制海権を握る。
1571 年	スペイン、レパント沖の海戦でオスマン帝国海軍を破るが決定的勝利ではなく、引き続きオスマン帝国は脅威。
1648 年	30 年戦争終結のためのウェストファリア条約でヨーロッパの主権国家体制が確立。
1667 年	大地震でドブロブニクは壊滅的打撃を受ける。
18 世紀	オスマン帝国の衰退始まる。同帝国の旧支配地域にオーストリア、露、英、仏が進出。
18 世紀後半	ハプスブルグ帝国は、クロアチア王立議会の廃止を始め、反抗的なクロアチアの貴族勢力の力を削ぐ。
1809 年	ナポレオンのダルマチア遠征。ドブロブニク共和国が廃止され、フランス領「イリリア諸州」としてナポレオンに統治される。(～1813 年)
19 世紀	オスマン帝国の旧支配地域は、ナポレオンの没落後、第 1 次世界大戦までの間、「東方問題」と呼ばれる不安定な状況へ。
1830 年	セルビアはオスマン帝国から自治権を得る。
1830～40 年代	クロアチアを中心に「イリリア運動」と呼ばれる民族的「ルネサンス」とも言うべき文化・政治運動が起こる。
<u>1848 年</u>	<u>ヨーロッパ各地で革命（「諸国民の春」）。民族主義に共感していたイェラチッチがクロアチアの総督になる。ハプスブルグ帝国の支持の下、クロアチアの自治を求めてハンガリーに宣戦布告し攻め入り、ハンガリーの独立運動の鎮圧に力を貸したが、クロアチアの自治は確立されず。</u>
1853～56 年	クリミア戦争。英、仏がオスマン帝国と同盟して、ロシアを破る。

1867年	オーストリアは、普仏戦争の敗北後、国家体制を改めて「オーストリア＝ハンガリー帝国」となる（～1918年）。クロアチアはハンガリーの支配下を脱せず。
1868年	クロアチアとハンガリーの合意により、クロアチアに限定的ながら自治が認められる。
1878年	セルビアのオスマン帝国からの独立がベルリン条約で認められる。
1914年6月	サラエボでハプスブルグ帝位継承者フランツ・フェルディナンド大公夫妻暗殺。第1次世界大戦が始まる（～1918年）。オーストリア＝ハンガリー帝国の解体。
<u>1918年12月</u>	<u>セルビア王国の摂政アレクサンダル皇太子は、クロアチア人、セルビア人、スロベニア人王国の建国を宣言。（1929年ユーゴスラビア王国と改称。）</u>
1941年3月	ユーゴスラビア王国、日独伊三国同盟に参加。ユーゴスラビア国内で、これに反対する親西欧派将校がクーデター。
<u>1941年4月</u>	<u>ユーゴスラビア王国は枢軸国の侵攻を受けて崩壊。「クロアチア独立国」建国。日本を含めた枢軸国側は同国を承認。ウスタシャ（クロアチアのファシズム団体）の指導者パベリッチが大統領兼外相に就任。ヤセノバツ収容所とスタラ・グラディシュカ収容所でセルビア人、ユダヤ人、ロマ人（ジプシー）らを殺害。</u>
1945年5月	チトー率いるパルチザンがザグレブに進軍、クロアチア独立国は消滅。
<u>1945年</u>	<u>ユーゴスラビア連邦人民共和国成立。（6つの構成共和国：スロベニア、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、セルビア、モンテネグロ、マケドニア；セルビア共和国内の2つの自治州：コソボ、ヴォイヴォディナ）</u>
1948年7月	ユーゴスラビアは、ソ連主導のコミンフォルムから脱退。西側との関係改善が徐々に進展。
1963年	ユーゴスラビア社会主義連邦共和国に国名を改称。
1970～71年	クロアチアで大規模な民族運動（「クロアチアの春」）。
1974年1月	ユーゴスラビアで新憲法。分権化傾向。
1970年代	ユーゴスラビアは西側諸国や国際機関から融資を受ける。79年の石油危機、不況により打撃を受け、対外債務累積、インフラ等の経済危機に。
1980年5月	チトー大統領、87歳で死去。集団指導体制に移るもやがて機能不全に。
1989年	ベルリンの壁の崩壊。連邦国家の中でセルビア人の利益が過度に擁護されているとして、クロアチア等で分離・独立の気運が高まる。
<u>1990年4月</u>	<u>クロアチアで実質的複数政党制での議会選挙。共産党が大敗、中道右派のクロアチア民主同盟（HDZ）が圧勝、トウジマン（HDZ）が大統領に就任。</u>
<u>1990年5月30日</u>	<u>クロアチアで初の複数政党による民主主義選挙を経た議会が招集された。（5月30日は1990年～2001年の間「建国記念日」とされ、2002年</u>

1990年12月	～2019年までは「議会の日」とされていたが、法改正により2020年以降再び「建国記念日」とされている。）
1991年6月25日	クロアチアを「統一した不可分のもの」と定めた新憲法制定。クロアチア内のセルビア人が多く居住する地方で分離を目指す動き。
1991年10月7日	クロアチアとスロベニアで独立宣言。クロアチア初代大統領にトゥジマンが就任。HDZが政権を担当。セルビア主導の連邦政府は、独立を認めない立場からユーゴスラビア連邦軍を投入して介入。EC（当時）の介入により、3カ月間独立宣言を凍結。（6月25日は2002年～2019年の間「建国記念日」とされていた。）
1991年12月	独立を再確認。同日、連邦空軍は大統領官邸を爆撃。この間も、ブコバルやドブロブニクを始めクロアチア国内各地で、連邦軍・セルビア人との内戦（クロアチアでは「祖国戦争」と呼ばれる。）が激化。
1992年1月	クロアチア国内のセルビア人勢力が「クライナ・セルビア人共和国」を建国（クロアチアの三分の一を占める。）。
1992年1月15日	国連特使のヴァンス元米国務長官の仲介によるユーゴスラビア連邦政府との間での停戦協定が発行。
1992年5月	EC主要国は、クロアチアとスロベニアを国家承認。
1992年8月	クロアチアとスロベニアが国連加盟。
1994年1月～ 1995年11月	トゥジマン大統領再選（1997年選挙でも再選。）。
1995年	明石康氏が、国連平和維持活動の責任者として、ザグレブの国連保護軍本部に務める。
1995年11月	東スラボニアを巡る緊張を背景に、クロアチアが、米国の一部支援を受けつつ、セルビア人勢力を攻撃（5月「稲妻作戦」；8月「嵐作戦」）、「クライナ・セルビア人共和国」を壊滅。
1998年1月	（1991～1995年の戦闘で、ブコバル、ビンコブツィ、オシエク、カルロバツ、スイニ、ゴスピチ、ザダル、シベニク、ドブロブニク等が大きな被害を受けた。死者（行方不明者を除く）は2万1118人（2018年、クロアチア記念資料センター）と言われる。）
1999年12月	米国が調停役を担った Dayton 合意で、ボスニア内戦終結。
2000年2月	Dayton 合意に従い、東スラボニアがクロアチアに復帰。
2000年1月	トゥジマン大統領死去。
2003年2月	大統領選挙でメシッチ（人民党（HNS））が勝利、第2代大統領就任。（2005年1月の大統領選挙でも再選、2010年2月まで大統領を務める。）
2003年11月	議会選挙で社会民主党（SDP）（中道左派、旧クロアチア共産主義者同盟）が勝利し、ラチャン首相就任。下野したHDZは、民族主義を唱道する立場から国際協調主義を強調する立場へ路線転換。
	EU加盟を正式に申請。
	議会選挙でHDZが勝利し、政権に返り咲き（2007年選挙もHDZが勝利。）。サナデル首相就任。

2007年10月	国連安保理非常任理事国に選出、2008—2009年の非常任理事国。
<u>2009年4月</u>	<u>NATO加盟。</u>
2009年7月	コソソ首相（HDZ）就任。前首相サナデルの汚職疑惑と、世界経済危機後の経済低迷により、HDZへの支持率低下。
2009年12月	大統領選でヨシポビッチ（SDP）勝利（2010年2月第3代大統領就任。）。
2011年6月	2005年に開始されたEU加盟交渉終了。
2011年12月	EU加盟条約署名。
2011年12月	議会選挙でSDP、HNS等からなる中道左派の野党連合が勝利。ミラノビッチ首相（SDP）就任。
2012年1月	EU加盟の是非を問う国民投票。66%の賛成多数（投票率43.5%）で承認。
2012年11月	ゴトビナ将軍（「嵐作戦」などを指揮し、クロアチアで英雄視される。）、旧ユーゴスラビア国際戦犯法廷（ICTY）で無罪判決を受け釈放。
<u>2013年7月</u>	<u>EU加盟。</u>
2015年1月	大統領選でグラバル＝キタロビッチ（HDZ）が勝利。（2015年2月第4代大統領就任。）
2015年11月	議会選挙でHDZ率いる中道右派連合「愛国同盟」（HDZと小政党の連立党派）が勝利。オレシュコビッチ首相（無所属）就任（2016年1月）。
2016年6月	クロアチア議会がオレシュコビッチ首相に対する不信任決議を可決。議会は解散。
2016年9月	議会選挙でHDZ（一部選挙区で小政党と協力。）が、比較第1党となる。ブリッジ党（MOST）との連立政権を形成し、プレニコビッチ首相（HDZ）就任（同年10月）。
2017年4月	国内最大の食品流通企業アグロコル社経営問題を巡って、HDZはMOSTとの連立を解消。これに伴い、ペトロフ（MOST代表）議会議長は辞任し、ヤンドロコビッチ（HDZ）が新議会議長に選出。
2017年6月	統一地方選挙での勝利を受けて、HDZは、人民党（HNS）との連立政権を形成し、政権を維持。
2020年1月	大統領選挙決選投票で、ミラノビッチ候補（野党SDP候補、元首相）が現職のグラバル＝キタロビッチ候補を破って勝利（2020年2月に第5代大統領就任）。
2020年1～6月	EU加盟後初めてのEU議長国を務める。
2020年7月	議会選挙でHDZが勝利。少数民族代表議員等との連立により第2次プレニコビッチ内閣が発足。

(了)